

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	沼澤 清一		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい。 該当する教員免許状の希望者を受講対象者として、履修カルテを使用した授業を実施することから、履修できる学生は、小学校教諭の資格課程登録者のみとする。		
7. 講義概要	教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。 この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。		
8. 学習目標	教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。 ① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。 ② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。 ③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。 ④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【課題レポート】 ・次の1～3を課題レポートとする。 課題1: 学級経営案を作成し提出する。 課題2: 事例研究①～③の後、講義内容に関連した1つの事例をあげて自分の考えを1000字以内で記述し提出する。 課題3: 研究授業での指導案 (本時) と修正指導案 (本時)、修正における学び (600字以内で記述) を提出する。 【振り返りシート】「日常の学習状況」に加味する。 指定された講義の終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教科書は使用しない。 【参考書】文部科学省編『学習指導要領解説 総則編』2020 年		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 学習目標の実現度において評価する。 ○評定の方法 日々の授業態度、参加度 30% レポート課題 40% 日常の学習状況 30%		
12. 受講生へのメッセージ	今、大きく変わろうとしている教育界。新学習指導要領の根底には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善があり、特に、探究を中心とした総合的な学習の時間の位置づけがあります。「主体的」「対話的」が求められる授業改善を行うには、まず、教師となる皆さんがそうした姿勢、そうした学びの楽しさを実感していなければなりません。そこから生まれる「深い学び」を楽しみましょう。 子どもの前で、「失敗していいよ」「失敗から学ぶんだよ」と言える教師になるために、講義は、自分から「失敗を超えて学ぶ姿勢」で取り組んでください。		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・本講義の内容と流れの確認 教職履修カルテと教育実習日誌から各自の成果と課題を明確にし、課題解決のために何を行うかを発表する。	事前学習	本授業のシラバスの確認 教職履修カルテと教育実習日誌の通読と自己課題の把握をしておく
		事後学習	自己課題解決のための今後の取り組みをまとめる
第2回	新旧学習指導要領の考え方 比較を通して新旧学習指導要領の要点をまとめ、新学力観に基づく指導方法を学ぶ。	事前学習	事前に配布された「新旧学習指導要領の比較」をもとに、今必要とされている学力観について考えておく。
		事後学習	新旧学習指導要領における重要点をまとめる。
第3回	学級担任としての願い・学級目標 「学級担任となったら何をしたいか」について発表する。 活動を導き、認め合う場の設定について事例から学ぶ。	事前学習	「学級担任となったら何をしたいか」について考えてくる。
		事後学習	教師の願いをどのように表現し伝えていくかを具体的な活動で考え、まとめる。
第4回	学級経営案の作成 学校経営案・学年経営案の提示を受け、学級経営案の書き方を演習する。	事前学習	学級目標 (教師の願い) を短い言葉でまとめたものを作成してくる。
		事後学習	学級経営案を修正し、提出する。
第5回	家庭訪問・保護者会の持ち方 担任として何をするか・何をしてはいけないかについて、グループ討論後、発表する。	事前学習	家庭訪問・保護者会において教師が注意すべきことについて考えてくる。
		事後学習	家庭訪問・保護者会の持ち方についてまとめておく。
第6回	保護者との関わり方 共に子どもの成長を見守る保護者との関わり	事前学習	保護者会などの行事以外での保護者との関わりについて考えてくる。

	り方について、グループ討論後、発表する。	事後学習	保護者とどのように協力していくか、その具体的な方法についてまとめる。
第7回	子どもの姿から学ぶ① 給食・清掃・休み時間・居残り学習の指導のあり方と教師の立ち位置について考える。	事前学習	授業時間以外で、子どもが楽しいと思う時間・嫌だと思いう時間についてまとめてくる。
		事後学習	教科外の時間の指導について、具体的な方法をあげてまとめる。
第8回	子どもの姿から学ぶ② 朝の会・帰りの会の映像を見て、いくつかの視点を設定した後、グループ討論を行い、その意義について検討する。	事前学習	自分が児童として行った朝の会・帰りの会の活動を振り返り、その意義について教師の視点で考えてくる。
		事後学習	毎日の何気ない活動時間を、教師が目的意識を持つことによって有効な時間に変えていくことを通して、教師の視点から子どもの一日の学校生活を捉え直していく。
第9回	事例研究① わがままで教師の言うことを聞かない児童への対応を、グループ討論後、発表する。	事前学習	事前に配布された資料をもとに対応の仕方を考えておく。
		事後学習	個に応じた対応の仕方についてまとめる。
第10回	事例研究② クラスに障がいを持つ子がいるときの対応について、グループ討論後、発表する。	事前学習	事前に配布された資料をもとに対応の仕方を考えておく。
		事後学習	個に応じた対応の仕方についてまとめる。
第11回	事例研究③ 親子の絆をもとにした「いじめ防止の授業」の実践記録を参考に、いじめ防止の対応方法について考える。	事前学習	自分の経験を振り返りながら、いじめの防止についての指導法について考えてくる。
		事後学習	保護者と共に集団意識を築く指導法について、個別指導との比較を通してまとめる。
第12回	指導・実践力を高める教材研究のあり方① ・学習指導案の書き方の確認 ・中心発問と板書の意義の再考	事前学習	研究授業の指導案を振り返る。
		事後学習	指導案の書き方について、自分の作成したものをもとに再考する。
第13回	指導・実践力を高める教材研究のあり方② 教材解釈・授業構成・中心発問・板書計画の4つの視点から研究授業の指導案をディスカッションを通して再考・修正する。	事前学習	自分の作成した指導案の修正箇所を考える。
		事後学習	ディスカッションを通して、指導案の書き方を再考し、自分の指導案を修正する。
第14回	指導・実践力を高める教材研究のあり方③ 研究授業での指導案と修正した指導案を提示して、その意図を発表する。	事前学習	修正指導案を作成し、発表の準備をする。
		事後学習	発表での意見を参考に、修正指導案をまとめる。
第15回	教師に求められる資質について、討論し発表する。 本授業の振り返りとまとめ	事前学習	講義を振り返り、教師に求められる資質について考えてくる。
		事後学習	各自で、目指す教師像を考えておく。